



紙芝居

絵と文 柳たかを (マンガ家)

小学校3年生の春、風邪をこじらせて肺炎にかかり昭和31年の春から半年間、寝たきりで過ごしました。運良く助かりましたが体力はガタ落ち、運動が得意な子供ではありませんでした。家の周り路地裏は、戦後の団塊世代の子供があふれていた。当時は、三角ベースというゴムボールを使った野球、馬跳び、ビー玉、べったん(メンコ)などが定番の外遊びでした。運動音痴な僕は、外遊びは下手くそで、あまりいい思い出がない。好きなことは、父親の昔話に耳を傾けること、折り込みチラシの裏にマンガを描くこと、描きながらいろいろな想像に浸ることでした。

楽しみは、夕方「チョンチョンチョーン」という拍子木の音を合図に始まる紙芝居。もらった10円玉を握り締め、紙芝居のいる公園に一目散。紙芝居のおじさんが、自転車の荷台にくくりつけた大きな紙芝居舞台の引き出しから水飴、スルメ、酢昆布、型抜き飴、煎餅などを器用に引っ張り出し売ってくれる。子供から見料を取ることは法律で禁じられていたので、10円前後の駄菓子を売ってその代わりにしました。当時思い出すのは、けっこうただ見の子供が多かったこと。昭和30年は、わずかなお小遣いさえもらえない子供がまだ大勢いた貧しい時代でした。

New! 東成区の昭和(15)



New! 東成区の昭和(16)



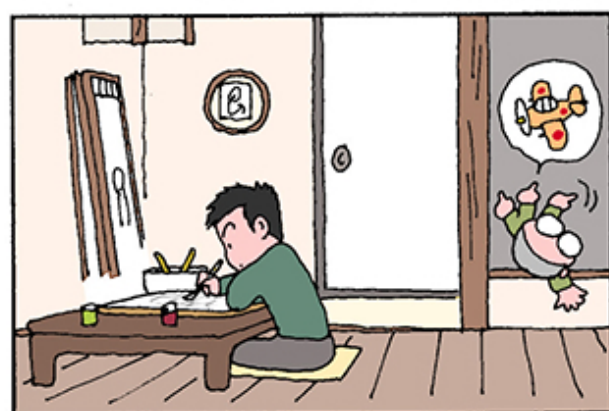
やぶにらみ日記

New! 東成区の昭和(17)



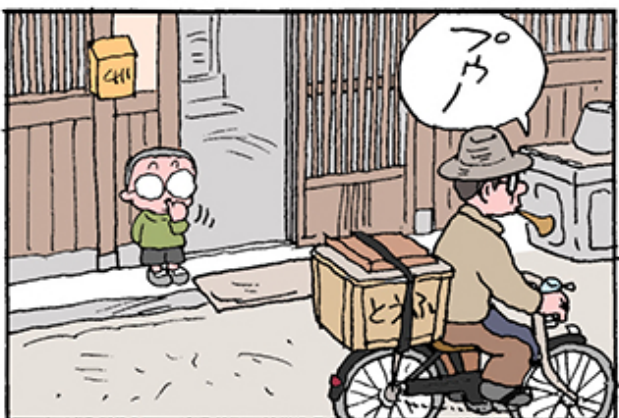
やぶにらみ日記

New! 東成区の昭和(18)



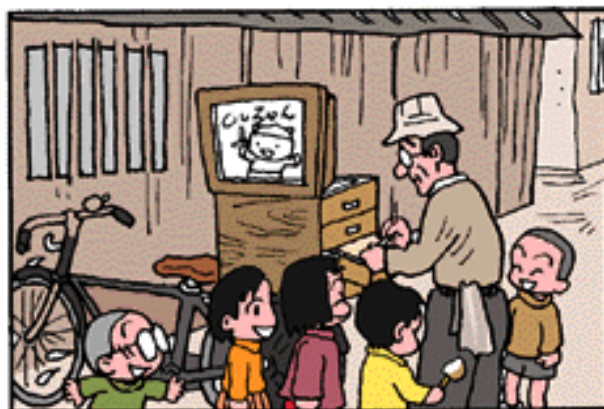
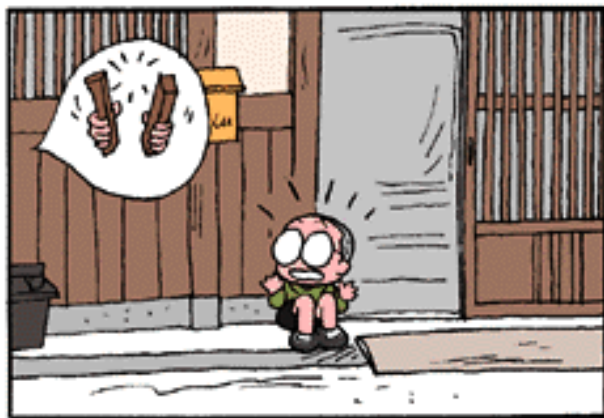
やぶにらみ日記

New! 東成区の昭和(19)



やぶにらみ日記

New! 東成区の昭和(20)



やぶにらみ日記

New! 東成区の昭和(21)



やぶにらみ日記

New! 東成区の昭和(22)



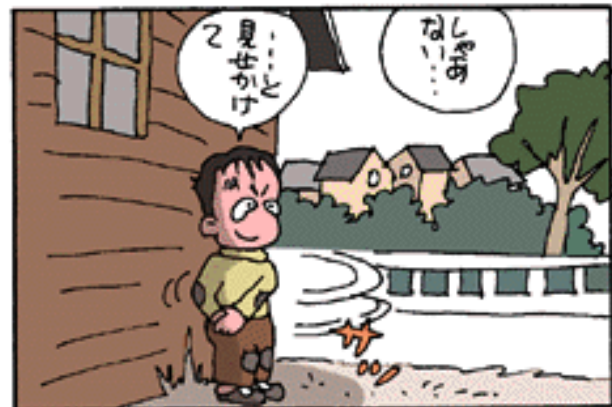
やぶにらみ日記

New! 東成区の昭和(23)



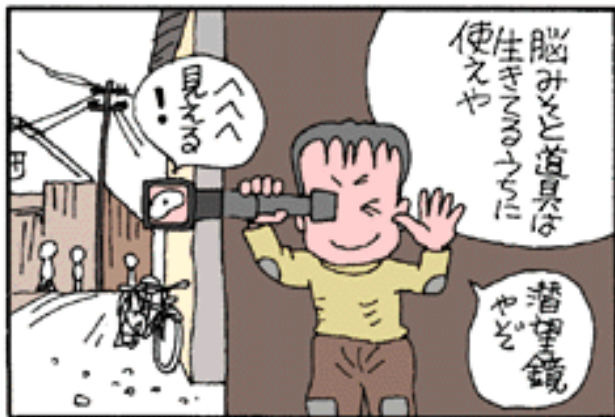
やぶにらみ日記

New! 東成区の昭和(24)



やぶにらみ日記

New! 東成区の昭和(25)



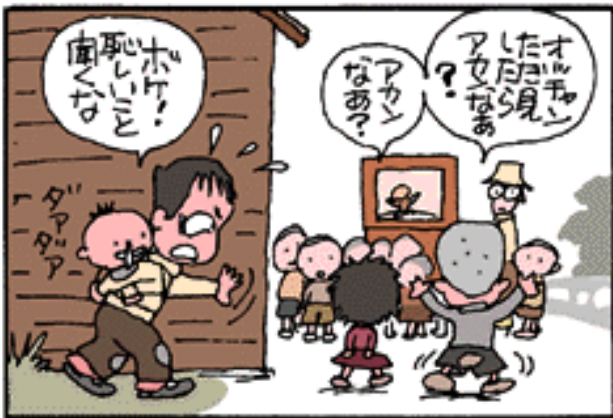
やぶにらみ日記

New! 東成区の昭和(26)



やぶにらみ日記

New! 東成区の昭和(27)



やぶにらみ日記

New! 東成区の昭和(28)

